

# Azalea 号外

発行所 パナソニック デバイス労働組合 長岡京支部  
 発行人 南俊幸 編集人 経営政策  
 長岡京支部HP <http://www.pidungk.com/> (最新組合情報をアップしてます!)

長岡京支部スローガン

志をともに!希望の未来へ

5月26日(火)にパナソニックセミコンダクターソリューションズ株式会社(以下、PSCS)より人材リソースシフトの申し入れを受けました。申し入れ内容と、現時点での長岡京支部の見解を報告させていただきます。

## 人材リソースシフトについて申し入れを受ける

### エンジニアリング事業強化に向けたソフトウェア等開発機能の パナソニックデバイスシステムテクノ(株)への統合に伴う出向について (要旨)

PSCSはこれまでの主戦場であったAV/ICTや対内を中心とした既存分野ではもはや大きな成長は見込めないとの事業環境認識の下、2018年に向けて事業の転地に向けた取り組みを実施しています。今後の目指す姿としては、パワー制御とセンシング領域に事業を大きく絞り込み、自社の製造はコアとなる化合物に特化した上で、モジュール化・ソフトウェア技術との組み合わせで顧客価値の創出を図るべく取り組みを進めております。

一方、パナソニックデバイスシステムテクノ(株)(以下、PIDST)は、1997年の設立以来、パナソニック半導体のハード設計・ソフト開発の受託を通じて競争力ある技術の蓄積を行ない、重要領域であるシステム化やソフト開発、更にはマイコン等の商品開発を担うパートナーへと成長いたしました。また、近年ではその技術を活かして、AIS社ならびにパナソニックの各事業場に対し、商材のインテリジェンス化へ向けたソフトウェア技術の提供や、ASIC・IP・モジュールなど多様な階層のデバイスソリューションを提供することにより、パナソニック全社のレイヤーアップに『半導体エンジニアリング事業』で貢献する中核会社として、今後更に期待されるところであります。

両社においては、長年に亘る委託受託関係の中で、得意とする技術領域・コストパフォーマンス等の観点から、事業・開発領域を分担し、それぞれに開発体制を構築してまいりましたが、今後、商材のレイヤーアップによる顧客価値の創出を目指すAIS社ならびにパナソニック全社への更なる貢献を果たすべく、新たな事業運営体制の構築を図ってまいります。

具体的には、これまで、相互に開発リソースを分散保有するソフトウェア開発、高速インターフェース開発、基盤技術開発の3つの機能領域をPIDSTへ統合し強化いたします。

①ソフトウェア開発は、ソリューション開発に強みのあるPSCSソフトウェア開発を、オープンソフトにも対応可能なPIDSTソフトウェア開発に統合

し、単独事業場では成し得ない総合力の発揮を目指した体制を構築いたします。急拡大するソフトへの対応力を加速すると共に、先行する技術プラットフォーム開発の強化でグローバル競争力を生み出すエンジニアリングの中核事業への転換を図ります。

②高速インターフェース開発は、高速通信系技術と液晶表示ドライバ系技術のリソースを統合し、高速インターフェースIP技術として集約し、設計受託競争力の強化を図ります。

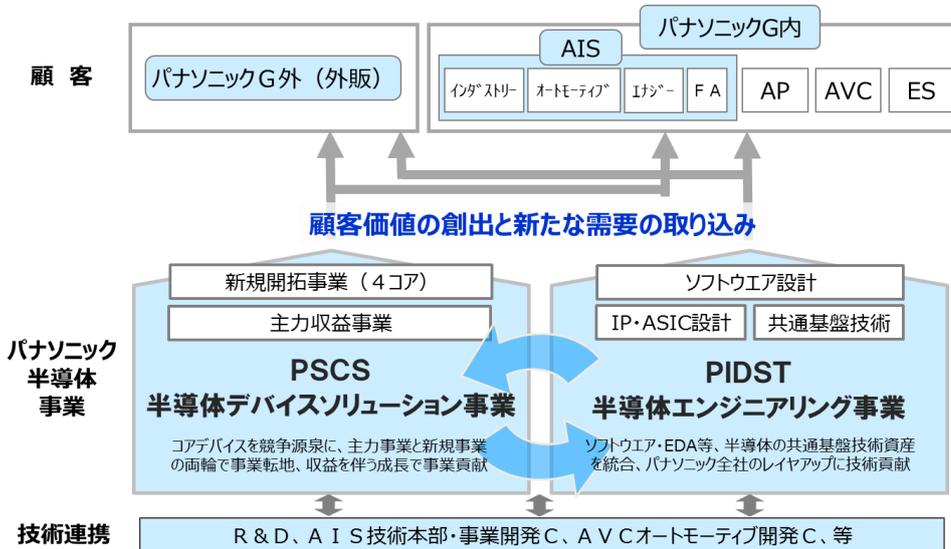
③基盤技術開発は、リソースを分断するEDA、ライブラリ、インプリの共通基盤技術をエンジニアリング技術として統合し、パナソニック全社に有効な共通基盤技術として技術貢献を図ります。

これらの統合・強化により、機動力の向上と経営の合理化で、収益を伴う競争力と成長性を実現してまいります。これに伴い関連するPSCS社員については、PIDSTに出向するものとし、一体運営を強力に推進してまいります。

#### 記

1. 出向先 : パナソニックデバイスシステムテクノ(株)
2. 対象者 : 半導体BU 在籍者: 128名(組合員)
3. 異動日 : 2015年7月1日付
4. 出向期間: 標準労働協約「出向に関する覚書」の出向社員取扱い基準『パナソニック100%出資およびこれに準ずる関連会社への出向』に準じ、特に限度は定めのないものとするが、各人の育成計画や適正配置等の観点および経営の必要性により個別に帰任を行うものとする
5. 諸取扱い: 標準労働協約「出向に関する覚書」の出向社員取扱い基準に準じる

## 半導体事業の競争力を強化するための体制



### AIS社 品質体制強化に向けた人材の異動について (要旨)

『オートモーティブ&インダストリアルシステムズ社』(以下 AIS社)は、2018年度までに車載分野と産業インフラ分野を成長領域と位置づけ、顧客価値最大化に向けて新しいビジネス・商品・サービスの創出により新たな収益基盤を確立していくことに向けて取り組んでおります。

特に車載関連事業は今後のAIS社成長戦略の柱となる重要な事業領域であります。その成否は品質保証・品質管理の面で市場・顧客から求められる高いレベルでの「車載品質」を実現できるか否かにかかっております。しかしながら、現状AIS社内の品質職能人材は体制面において必ずしも十分とは言えず、その育成・強化が急務であります。

つきましては、「車載品質」を実現できる品質人材体制強化のために、必要な人材をAIS社全体として育成、リソースシフトすることを主眼に、下記の通り人材の異動を実施いたしたく存じます。

#### 記

- 異動先：AIS社 事業基盤強化センター
- 対象者：パナソニックセミコンダクターソリューションズ(株)在籍者：100名(含む非組合員)
- 異動日：第一期 (約50名)  
2015年 7月1日付  
：第二期 (約50名)  
2015年 12月1日付

※上記日付にて在籍異動の上、集合研修(約2ヶ月)及び事業部研修(約7~8ヶ月)を受講し、その後必要に応じて車載関連事業の品質部門に配置予定

### 現時点での長岡京支部としての見解

半導体事業は既存分野では大きな成長は見込めないとの事業環境と認識している一方、成長市場である車載・産業分野ではエレクトロニクス化の進展など、技術の高度化や複雑化が進む中で、システム化が求められていると認識しています。

今回申し入れされたリソースシフトは、要求されるシステム化に対応するためPSCSとPIDSTの両社が保有するそれぞれの強みであるソリューション開発技術とソフトウェア技術を統合し技術プラットフォーム開発の強化を図ること、IP技術の設計受託力の強化を図ることに加え、パナソニック全社に有効なコアデバイス技術・外販の強化を図ることは半導体事業の成長につながる施策であり、そのための体制変更と考えます。

また、AIS社の車載関連事業における品質体制を強化し、高い車載品質を実現することでAIS社の事業成長に貢献するためにも、リソースシフトを行うことについて一定の理解はできます。

今回のリソースシフトにより、PSCSとPIDSTの両社が対等な立場で半導体事業を担う両輪となり、半導体技術を核とした「デバイスソリューション事業」と「エンジニアリング事業」で事業競争力の強化と持続的成長を実現すること、およびAIS全社で車載品質を実現するためには、半導体事業の成長戦略を実践する従業員一人ひとりが今回の施策の意味を十分理解し、高いモチベーションを持って取り組むことと、仕事のやりがいを実感できる職場風土作りが重要です。そのためにも、今回の施策を行うにあたっての狙いや考え方はもちろんのこと、これまでのPSCSとしての課題がどのように改善され、これからの事業成長を果たすことができるのかを明確にし、全従業員の理解を深める必要があると考えます。職場の意見を踏まえて協議していきますので、職場での論議をよろしく願います。

### ●今後のスケジュール

6月5日

職場報告

6月末

支部委員会

7月1日以降

リソースシフト

職場会